



札幌駅と大通をつなぎ、
にぎわいのある街づくりへ

札幌駅前通 地下歩行空間



札幌駅前通地下歩行空間の計画
に関するお話（関連レポート02 P.13参照）
を伺ったあと、現地をご案内いた
だきました。こちらのレポートでは、
工事現場における取り組みを中
心に報告します。

人に優しく、楽しい空間

工事現場をご案内いただいたのは、札幌市建設局
土木部創成・駅前整備担当課の國兼駅前工事担当係
長。工事現場を歩きながら、お話を伺いました。

札幌駅前通地下歩行空間は、新規構築部の延長が
約460mあり、地上の北1条交差点の位置を境に、
交差点より南側の国道部分は開発局が工事を担当す
る区間、北側は札幌市が工事を担当する区間に別れ
ています。それぞれ工事が進められており、取材時
の工事の進み具合は、國兼係長によれば「こちらの
ほうがちょっと先行しているかなという状態です
が、ほぼ同じ」とのことでした。

地上へのアクセスとして、各交差点には4つ角に
階段出入口ができることになっており、そのうち
2つはエレベータ設置と、バリアフリーにも対応し
てあります。地下というと、どうしても閉塞的なイ
メージを持ちかねませんが、天井の各所や地上の出
入り口部には、歩行者の目線よりかなり上にガラス
を使うことで地上からの自然光を取り入れ、地上の
緑が見えるような工夫を設計に盛り込んでいます。



札幌市建設局土木部
創成・駅前整備担当課 駅前工事担当係長
國兼 崇史 さん



地下通路の断面構成については、一番狭くても20mの幅が確保され、階段口の回りや周辺ビルとの接続部分ではより広い幅になります。この標準的な20mの幅のうち、柱と柱に挟まれた真ん中の12mが主として歩くための空間、その外側4mずつの空間がいろいろな活用のできる場所となっています。そのため、歩行用の空間には物を置けないのですが、外側の空間にはベンチや色々な展示物を置くことができますとのことです。

歩行空間と外側の空間を分ける柱のデザインについては、デザイン検討委員会という委員会で検討され、四角柱など色々なパターンの中から、柱をなるべく細くして、人の動ける空間を広くしようということで、最終的に現在の円柱形になりました。国兼係長曰く、「デザイン的なコンセプトは特になかったと思うのですが、現場で柱をずっと見て、ローマの柱のイメージがあるねと言う方がいらっしゃいました(笑)」とのことです。地下通路完成の際には、気をつけて見てみてください。

ビルとの接続あれこれ

地下歩行空間沿いには多くのビルが存在し、将来的には様々な方法でそれらビルとの接続がなされていきます。既存のビルと接続する場合は、昔から建っているビルの地下1階の高さと地下歩行空間の床の高さが合わないことが多く、地下歩行空間とビルとの間に階段を設けて、階段を使ってビルの中に入るという方法がとられています。階段による接続にもさまざまな形があり、階段で直接つながり方や、地上への出入り口部の踊り場のスペースからビルの中に入るという方法もあります。なお、建て替え予定

のあるビルに対しては、将来の接続に対応できるような壁の構造とされているとのことです。

一方、新築のビルとの接続では、ビルの間口全体を使って地下歩行空間に接続し、ビルに入るテナントが地下通路から並んで見えるようになっていきます。ビルとの接続区間には大きなスペースになっていて、オープンカフェなどの利用が想像されます。

また、道庁赤レンガを見る北3条通を挟んだ周辺ビルと接続するエリアには、現段階で「3条広場」と呼ぶペースが確保できており、ステージを設けミニコンサートなどを行い、にぎやかさを演出しているといういろいろ検討されています。

地下歩行空間は確かに通行するための空間ではありますが、例えば、大通駅とバスセンター駅をつなぐ地下通路とは雰囲気異なる、歩く楽しさもポイントとなる空間になりそうです。



札幌市中心部の活性化に期待

工事施工においては、地下歩行空間は地下鉄南北線の上に造られているため、工事進捗における地下鉄や周辺のビルへの影響に大変気を使われています。地下鉄に対しては、工事の影響で地下鉄の軌道が浮き上がらないように、地下水のくみ上げやセンサーによる24時間監視、ビルに対しても地盤の強化やセンサー監視の対応をしつつ、工事を進められたとのこと。

また、地下を掘る作業のため埋設されているガス管、水道管、電話のケーブルなどを傷つけないよう細心の注意が払われ、地道に手掘りをした箇所も少なくはありません。

冷暖房の導入についても十分吟味され、システムは北海道熱供給公社が管を備え付け温水、あるいは冷水を流すシンプルなもの。熱エネルギーを作る同公社のプラントが札幌市内に幾つかあり、使い切れなかった余剰エネルギーをここで利用する、エコロジカルな取り組みも行われます。

その他、駅前通りの中央分離帯に植えられていたハルニレなどの街路樹は北大農場や篠路の清掃工場

の敷地内への移植が行われています。中央分離帯の街路樹は、イルミネーションを飾る大事な役割を果たしているため、無くしてしまうとやはり観光都市札幌にとってはイメージダウン。そこで新たに箱を作り、仮の街路樹を植え、時期になるとイルミネーションを点灯させています。また、工事が終わった後は、街路樹は復元されるということです。

工事施工以外には、例えば北海道日本ハムファイターズの優勝パレードの時には紙吹雪の掃除、洞爺湖サミットの時は工事を10日間ほど中止し、空洞状態の場所に危険なものが仕掛けられていないかとチェックを行っています。

完成すると札幌駅からすすきのまで一直線に結ばれ、都心の歩き方が非常に便利になることは間違いありません。快適なコンパクトシティを目指して整備が進められてきていますが、お披露目される日もいよいよ迫ってきました。この事業は単体として歩行空間を捉えているのではなく、地上や沿道との一体感を重要視しており、緑を感じる都心の街並み形成へと、札幌市の豊かな街づくりの一環でもあります。これにより中心部が元気になる、活性化されると各方面から期待されています。

